

# 花粉症治療最前線

少しずつ春めいてくる2月。

しかし「春といえば花粉症!」というイメージが定着して10年以上。

花粉シーズンともなれば、

毎年マスコミをにぎわせていますが、

治療法は変わってきたのでしょうか?

最近の花粉症治療について、

笠井耳鼻咽喉科クリニックの笠井院長に

お話をうかがいました。



笠井創先生

(かさい・はじめ)

医学博士。笠井耳鼻咽喉科クリニック院長。

笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室

☎03-5729-4187

<http://www.linkclub.or.jp/~entkasai>

日本人の  
約20%が花粉症、  
といわれていますが

花粉症の方は、年々増えてきていると思います。たとえば、東京では有病率約20%といわれていますが、血液検査をすると30〜40%の人はスギ花粉の抗体を持っていません。まだ症状が出ていない予備軍を含めると、花粉症の人と発症の可能性のある人とで40〜60%になるのではないのでしょうか。

花粉症の人のうち、病院を受診するのは3〜4割。受診する人のほとんどは、症状が重い人です。残りの半分以上の受診しない人は、薬局で薬を買ったり、サプリメントを使ったり、あるいはがまんしたりして過ごしているわけです。

病院では  
どのような治療が  
行なわれていますか?

花粉症は季節性アレルギー性鼻炎の一つで、スギやヒノキなどの花粉が原因となって、くしゃみや鼻水、目のかゆみなどのアレルギー症状を起こす病気です。季節を問わない通年性ア

ルギー性鼻炎の治療については、厚生労働省が作成する「鼻アレルギー診療ガイドライン」に沿うのがよいとされていますが、2005年度版から新たに花粉症の診療ガイドラインが設けられました。

通年性アレルギー性鼻炎の治療は、「軽症」「中等症」「重症」の3段階に分かれています。今回、花粉症には軽症の前に「初期療法」という予防治療の段階が設けられました。花粉症の時期は決まっていますので、花粉が飛び始める2〜3週間前から治療を始め、シーズン中のアレルギー症状を軽減する治療です。病院での花粉症治療の基本は、薬による治療です。症状の程度や時期に応じて薬で治療していきます、改善されなかった場合、最終的には手術的な治療を提案します。

花粉症を治療していくうえで、最後に残るのが鼻づまりの症状です。鼻づまりの原因である粘膜のはれを、薬で治すのはむずかしいことです。原則として、薬では改善できない症状に対して手術をするので、現在ほとんどの手術は鼻づまりを改善するための治療になります。

鼻の奥には下鼻甲介(こさかい)というひ

だがあります。その部分の粘膜がアレルギー反応を起こすのが、鼻づまりの原因です。外来で行なう手術では下鼻甲介の表面をレーザーで焼くことで、はれた部分をとり除き、鼻の通りをよくします。

鼻粘膜の治療に使用されるレーザーには、炭酸ガスレーザーや半導体レーザー、ヤグレーザーなどがありますが、基本的なはたらきは同じです。当院では炭酸ガスレーザーと半導体レーザーを、症状や治療回数によって使い分けています。安全で、痛みや出血がほとんどなく、短時間で治療できます。

当院の場合、鼻粘膜のレーザー治療は予約なしで大丈夫です。初診でレーザー治療の適応があれば、その場でレーザー照射ができます。特別な準備は必要ありません。また、健康保険も適用されます。

レーザー治療は  
誰でも  
受けられますか?

耳鼻咽喉科で治療を受けることができる方なら大丈夫です。レーザー治療の良いところは、副作用がない点です。これまでの治療で効果がなかった方はも